

第5章. 施設計画

3. 平面モデル

設計時の平面詳細レイアウト検討にあたり、計画の基本となる考え方を次のとおり整理します。

(1) 平面計画のパターン

一般的な平面計画のパターンを、コアの配置と廊下位置の組み合わせにより示します。

①コア（階段・エレベーター・トイレ等）の配置

両端コア	片側コア	中央コア
コアを短辺両側に集約。 奥行の長いフロア空間の確保が可能。 一般的に執務ゾーンに柱が必要。	コアを長辺の片側に集約。 比較的大きな無柱空間の執務ゾーンの確保が可能。	コアを中央に集約。 四周に連続する執務空間の確保が可能。 ある程度の奥行の長さが必要。

※南側敷地は、南北方向（奥行）が短いため、「中央コア」の採用は検討しないものとします。

②基本パターン（コア配置と廊下位置の組み合わせ）

	基本パターン	特徴
両端コア		自治体庁舎で一般的に採用されるタイプ。 廊下に沿ってカウンターを設置することで、数多くの窓口数を確保できる。 業務支援諸室（書庫等）をフロア東西に配置するため、執務室と諸室の動線が長くなり、職員の業務効率面で劣る。 執務室が2分割され、将来のフロア内の組織・職員数増減への対応の柔軟性が劣る。
片側コア		執務室を南面に配置するため、執務室に採光を確保しやすい。 廊下に面するカウンター周辺は採光に乏しく、来庁者の快適性は劣る。 業務支援諸室（書庫等）が廊下の北側に位置し、来庁者と職員の動線が交錯。
		南面に廊下があり、カウンター周辺の採光に優れ、来庁者の快適性が高い。 執務室と業務支援諸室（書庫等）が隣接するため、動線が短く、職員の業務効率が高い。 来庁者と職員の動線の分離が図りやすい。 通路面積が増える傾向にあるため、有効スペースを確保する効率的な設計が求められる。
凡例		